

佐久城(浜名城)(市史跡)(浜松市北区三ヶ日町都筑字西平)

室町時代浜名地域(三ヶ日町一帯)を支配した浜名氏の居城で佐久城(別名浜名城)

浜名氏は平安末期鶴代を本拠として興起した猪鼻氏の系統を引き、「鶴退治」で有名な源三位頼政の子孫といわれる。室町初期の貞和四年その中興祖浜名左近大夫清政がこの地に築城居住して以来子孫は足利幕府の奉公衆となり常に京都にあって将軍の側近として活躍、又歴代歌人としても著名であった。清政より九代目の肥前守頼広の時永禄十一年十二月徳川家康の遠州進入にあたり守護今川氏のため当城にこもって抵抗したが翌十二年二月力つきて降伏没落し、以来家康の武将本多百助信俊が守備したが、天正十一年東北方の野地城構築により廃城となった。

その遺構は見取り図の如く、半島突端に楕円形の本丸(本曲輪)南側に大きな空堀を隔て、二の丸(南曲輪)が残存するのみで、埋立てられた現在地周辺は字名御馬といい旧厩舎の所在地と思われ、これより東方二百㍍位に及ぶ範囲が城内と考えられ字本城、南本城等の字名が残り、侍屋敷等があったと思われる。浜松市教育委員会看板による



南側から佐久城遠望



雑兵長屋跡